

# 森の会

FOREST MORINOKAI NEWS vol.17

## ニュース17

2019年8月1日発行 編集・発行／森の仲間たち

### I・N・D・E・X

- 先生からのメッセージ……………2～4
- 会員だより……………4～6
- 2018年度会計報告……………6
- 進路状況・基金のご協力とお願い……………7
- 地域科学部公開講座案内・役員紹介……………8

## 2019年度 森の会 総会・懇親会のご案内

**日 時** 2019年**10月26日(土)** 12:00～14:30(受付11:30～)

**場 所** じゅうろくプラザ 1F  
レストラン ラ・ローゼ・プロヴァンス  
岐阜市橋本町1丁目10番地11 TEL:058-262-0156 JR岐阜駅隣接(徒歩約2分)

**会 費** 3,000円(在学生会は1,000円)当日受付にてお支払いください。

**お楽しみ** ご当地タレント **さや・かな** オンステージ!!  
在学中にご当地タレントとして活躍した2017年度卒業生 川脇沙也佳さんと田島佳奈さんが登場

### ご出席の方はメールまたはFAXにてお知らせください。

ご氏名、入学年度、所属ゼミ、緊急連絡先を明記ください。  
また、ご住所等の変更のある方も、メール・FAXにてご連絡ください。  
※お子様の同伴もOK! 皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



さや・かなさんの活動の様子

E-mail : [mori2001@gifu-u.ac.jp](mailto:mori2001@gifu-u.ac.jp) FAX:058-293-3008

**申込み締切 10月7日(月)**



2018年度 総会・懇親会の様子(2018.11.3 岐阜キャッスルインにて)

# 先生からのメッセージ

## 学会と研究

### 地域文化講座 ● たけうち あきろう 竹内 章郎 教授



大学院生の時の初めての学会（日本哲学会）報告で功利主義の成立を扱い、その推進派の啓蒙思想に対抗した信仰der Glaubeに関するヘーゲルの話を総括して、僕は信仰主義なる造語を作った。だが学会主流派の或る大家から、功利＝有用性概念成立時の信仰やイデオロギーに着目した僕の報告の眼目には殆ど触れず、勝手な造語に頼る反哲学的な問題報告だという猛烈な非難を浴びた。

非難されたのは「報告内容が批判にも値しないから？」「内容には文句がつけられなかったから？」「僕の恩師との理論的敵対のため？」と様々に思った。同時にかの大家達の拠所だった著名言語哲学者の空疎な言葉、＜哲学は蠅に蠅採り壺から抜出る道を示すもの＞も頭に浮かび、主流派哲学の「詰らなさ」を実感しつつもこの実感自体も反省すべきかと思ったり、この「詰らなさ」の克服こそ少数派哲学の目標だと高揚感を感じたり、といった矛盾だらけの気持ちになった——ちなみに僕は学部の卒論で、「矛盾が真理の規則、無矛盾は誤謬の規則」という「非」常識を主張したヘーゲルの矛盾論の意義を書いていた。

今に至るもズーと哲学的少数派、いや極少数派の僕だが若干は支持者もいて、少し時がたって日本哲学会のシンポジウム

提題者や学会評議員・理事も勤めたが、そんな中でもたびたび感じた主流派哲学の「詰らなさ」を通じて、かえって僕は研究とは如何なることかをより真剣に考えもした。もっとも小さな学会だが唯物論研究協会に集う先輩研究者幾人かがかの「詰らなさ」とは全く無縁で、＜世界のラディカルな批判はまた個人の生活のラディカルな批判でもあるべきで、視点をずっと高い位置にもってこることと個人の内面をより深く抉ることとは非常に近い作業だ＞という「哲学するphilosophieren」こと——カント研究が有名にした言葉だが——を重視していた点に僕は救われ、彼らとの多くの研究会で研究が進み、そんな研究会が縁で20冊程の共著も刊行できた。

この恵まれた環境があったからこそ言えるのだが、批判どころか非難しかしない人達との事も含む学会での「交流」や——学会以外での多くの「交流」もだが——かの「詰らなさ」が僕を鍛えてくれたが故に少数派で居続けながらの研究ができたのだから、それらに感謝せねば、と思う定年間近のこの頃である。



## 地域科学部での23年。幸せな大学教員人生でした！

### 地域構造講座 ● こんどう まきのぶ 近藤 眞庸 教授

1996年10月の学部創設と同時に教育学部から移籍し、この3月には定年退職（65歳）を迎えます。その間、120名の学部ゼミ生と30名を超す大学院生が、私の研究室から巣立ってきました。専門の講義（教育学、環境教育論、健康教育論）や社会活動演習を受講してくれた卒業生を加えたら、1000人を優に超えているかもしれません。

発問と予想・討論を軸とする「対話型の学び」。毎講義後、受講生から届く「予想・復習レポート」を通した応答。全受講生のレポートをコピー編集（匿名）したプリント資料をテキストにした意見交流（「三角形トーク」）。「一人芝居」仕立ての語りや音楽朗読劇（「劇的手法」）。学びの作品化（「市民のための環境講座」づくり）と「貼る板書」方式のプレゼンテーションetc. — 23年におよぶ地域科学部での講義・演習は、私の教育[方法]学研究の実践の場でもありました。

最後のゼミ生が、私の実践への「通信簿」として、学部広報

冊子「FOREST」最新号に次のような文章（抜粋）を寄せてくれました。

「……近藤ゼミでは、その場でテキストと出会い、テーマと向き合い、まっさらな状態から話し合いを始めます。用意された“正解”ではない、自分で考えたことを、人に伝え、人の意見に耳を傾けることの繰り返しです。大切なのは、事実を知ることであり、当事者の声を聴き、想像力を働かせながら学ぶことを通して、自分の意見をもつこと（であることを学びました）。ゼミでの、2年半に及ぶこうした対話的な学びのおかげで、身近な出来事の一つ一つの問題について自分の考えをまとめてくことができるようになりました」

地域科学部教員としてみなさんと過ごした日々は、私の宝物です。幸せな大学教員人生でした。この場を借りて、お礼申し上げます。

\*2020年3月7日（土）～8日（日）に理事長・年次学会長として「じゅうろくプラザ」（岐阜市）で開催する、「日本教育保健学会 第17回大会」（詳細は、学会ホームページ）が、「最終講義」となる予定です。

## 私の授業：言語学と英語

牧秀樹です。2002年4月に赴任して来たので、17年勤めたこととなります。私の専門は、言語学で、米国にしばらく暮らしていたこともあり、英語教育にも関わっています。以下では、これまで私が行ってきた言語学と英語の授業についてお話しします。

まずは言語学から。私は、言語学の中でも、語の並び、つまり、文の構造に興味をもって調査しています。そして、過去50年ほどの調査によって、世界の言語の構造は、実は、驚くほど似ていることが分かってきました。それを背景に、私は、まずは、日本語と英語の構造を教え、そして、それらの構造は、実は、アジの開きの関係にあって、ほぼ線対称になっていることを教えます。具体的には、(1)から(6)に見られるように、下線部分の語を中心に日本語は左に、英語は右に何か〔 〕で示した部分)を置いているだけです。つまり、縦線を中心に左右対称になっています。

これをもとに、世界の言語は、実は、ほぼ日本語タイプか英語タイプかのどちらかであることを知らせ、未知の言語（スウェーデン語、モンゴル語、チベット語など）をいきなり提示し、

	日本語	英語	
(1) [イチロー]	さえ	even	[Ichiro]
(2) [東京]	で	in	[Tokyo]
(3) [翔平を]	褒めた	praised	[Shohei]
(4) [イチローが翔平を褒めた]	ので	because	[Ichiro praised Shohei]
(5) [イチローが翔平を褒めた]	ら	if	[Ichiro praised Shohei]
(6) [イチローが褒めた]	人	the man	[Ichiro praised]



私は、子供のころからいろいろな動物が好きでした。特に淡水魚や両生類、爬虫類などの小動物がお気に入り、身近な種類はだいたい記憶していました。しかし、私が大学に入学した30年ほど前から野生の動植物の遺伝子について調べる技術が発展して、急速に自然界に対する「解像度」が上がってきました。それまでは、形態的にはっきりと区別できる動植物を「種」として分類し、それが生物分類の基本的な単位とされていたのですが、DNAやタンパク質を調べることで、それまで見えなかった生物の多様性が見えてきたのです。その結果、動植物は地方ごとに性質や遺伝子が異なっていること、また、これまで見分けられていなかった種が日本列島にたくさんいることなどが次々と明らかになってきました。

岐阜県にも近年見つけた「新種」がたくさんいます。長良川などにいるナマズも、ナマズとタニガワナマズという2種になりました。日本列島のメダカも、今では2種に分類されてい

## 地域文化講座 ● 牧<sup>まき</sup> 秀樹<sup>ひでき</sup> 教授



それでも、実は、簡単に構造を理解することができることを示しています。

英語教育では、社会に出てから役に立つことに絞って教えています。大きく、3つの活動を行います。第一に、ハワイ大学の学生との間で電子メール交換を行います。第二に、旅行代理店に就職したと仮定して、旅のプランを作成し、英語でパワーポイントを使って発表します。そして、第三に、岐阜の魅力ビデオ撮影し、英語で芝居もしながら、映画のような映像を作成し、ハワイ大学の電子メール交換相手に、YouTubeに加工して送ります。学生たちは、最初は、課題の多さに「はんぱねえ」とうんざりしているようですが、やり始めると癖になるようで、思ったより「はんぱねえ」評価をもらっています。



## 地域の多様性をつなぐ

### 地域環境講座 ● 向井<sup>むかい</sup> 貴彦<sup>たかひこ</sup> 准教授

私は、子供のころからいろいろな動物が好きでした。特に淡

るので、岐阜県にいるのはミナミメダカという種になります。近年の図鑑やインターネットで知識を得ている生き物好きの子供は、こうした「解像度」の高い情報を元に自然を見えています。

その一方で、古い知識しか持たない「大人」はどうでしょうか。その場所にどんな生き物がいたかも考えずにコイやアユを放流、どこかから買って来たホタルやメダカを放流、そうして「子供に自然を体験させる」といって自己満足。解像度の高い目を持つ子供たちは頭が良いので、ハイハイと従ってくれますが、内心どう思っているのでしょうか。

私は地域科学部の教員となってから、まちづくり的なことに関わらせていただく機会が何度かありました。そうした中で、その地域の魅力となる自然、文化、伝統、工芸品などについて、若者と年配の方々の間で知識や考え方にすいぶん差があるように感じました。地域科学部は、さまざまな知識を得ることができる学部です。ここでの学びによって考え方を深めた卒業生の皆さんは、さまざまな立場の人をつなぐ重要な役割を果たせるのではないのでしょうか。

## 勤続9年目の自己紹介

### 地域政策講座 ● やまもと こうとく 山本 公德 准教授



「常識を疑え」「既存観念に囚われるな」—皆さんも、これらの言い回しを学生時代に一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。かくいう私も、学部生、院生時代を通じて指導教員からこれらを口酸っぱく説かれ、以来座右の銘の一つとして心に留めてきました。

とはいえ批判精神を持ち続けるのはなかなか大変なことで、だんだんと年を重ねるにつれ、何より重要なのは体調の維持であると日々感じ入っています。そんなこんなで最近健康に関する書籍をたまに眺めているのですが、この分野、図らずも「常識の打破」を訴える惹句にあふれている。「長生きしたければ薬を飲むな」、「カルシウムを多く摂取しても骨は強くなるな」等々…。「深呼吸は体に悪い」なんてのもありました。

文系研究者である私には、これらの主張を厳密に検証することができませんが、文系でもとりわけ歴史学などでは、「常識の打破」が盛んです。「鎖国はなかった」、「維新志士は単なるテロリスト」、「市民革命はなかった」、「ホロコーストなどなかった」…。

これら一つ一つを丁寧にみていけば、学問的検証に耐えうるものもそうでないものもある訳ですが、いま私には別のことが気にかかっています。上記のことに限らず、気がつけば、私た

ちの周りには「常識」を覆そうとする言い回しがあふれかえってはいないでしょうか。少し目線をずらしていえば、「常識」が軽くなったと申しましょうか。そのことによって社会の風通しが良くなるのならいいのですが、そこには何か大きな問題がはらまれているのではないかと、そんな気がするのです。

いまや「常識」に私たちを抑圧するほどの重みはなく、センセーショナルな文言で売り上げを伸ばそうとする商業主義の引き立て役に成り下がってしまったのではないかと。「常識」によって支えられているはずの社会は、もしかしたらもう…。だとすれば、いまラディカルであるために必要なのは、壊れかけのコンセンサスを縫い合わせる技術なのかもしれない。いやしかしこれはラディカルというより一周回って保守思想に接近している気がしないでもない。そもそも保守とは…

字数制限を超えたのでそろそろ止めます。こんな益体もない堂々巡りが楽しい、それが現在の私です。今後ともどうぞよろしく願います。

**退職・転任された先生のご紹介** 2019年3月31日をもって退職・転任された先生は次のとおりです。

#### 定年退職

西村 貢 教授 (地域政策講座 財政学)  
土岐 邦彦 教授 (地域構造講座 発達心理学)

#### 転任

林 琢也 准教授 (地域政策講座 経済地理学) (北海道大学へ)  
山口未花子 助教 (地域構造講座 人類学) (北海道大学へ)

## 会員だより

### 第3期生 ごとう ゆうじ 後藤 祐治



こんにちは。地域科学部3期生土岐ゼミの後藤祐治です。実は2年前にvol.15の新役員紹介にて初投稿しており、今回は早くも2度目です。2年前とは打って変わり新しい環境に身を投じており、私事と地域科学部について僣越ながらも書いてみます。

結論から申し上げますと、2017年の秋に脱サラを志し退職後すぐに農業の世界へ飛び込みました。これで大学卒業後は3つめの仕事で、3次産業→2次産業→1次産業の順番で現在に至り、さらにこれら全てを合わせた6次産業にも合わせて取り組んでいます。

これまでどの仕事にも全力で取り組み、退職の際にはきちんとした置き土産を残すこともできたのも、地域科学部や土岐ゼミで培った幅広い教養と多角的な視野や思考力が幾度となく自分を助けてくれたからだと思っています。

そして今は、約15年間真剣勝負で培ったスキルを生かし、生涯現役として農業に取り組み、地域科学部で学んだことと農業

でもって町おこしをすることに挑戦しています。実は自分ひとりにとっては途方も無く大きな挑戦です。しかし本当に良き縁と良き師

や仲間恵まれてこれまでやって来られたので、その恩返しの時だと思い、岐阜大学と地域科学部の一層の盛り上げにも僅かながら貢献していきたいと思っています。

最後になりますが、年に一度の懇親会はいつもアットホームな雰囲気、懐かしい先生や仲間、新しい仲間とワイワイやりながら、お互い別世界で奮闘している人同士で楽しめます。是非お誘い合わせの上で気軽にお越し下さい。令和最初の森の会総会と懇親会、きっと新しい何かを得られると思います。

## 会員だより

みなさん、こんにちは。2017年度卒業生の佐藤はるかです。昨年は、雪深い山のとある旅館にて、3か月間住み込みのお仕事をしました。もともと日本らしい文化に興味を持っており、豊かな自然の中にあるコバルト・ブルー色の温泉と、自分で着物を着られるようになることにあこがれを抱いて、簡単な荷物



養老山脈より撮影

で向かった新生活。これまで私が生きた23年と数か月の中では、たった3か月間の短い出来事でしたが、私にとっては人や物事に真剣に向き合った、充実した時間となりました。

現在は、地元である岐阜県海津市に勤

### 第18期生 <sup>さと</sup>佐藤 はるか

めています。大学生時代は柴田努セミナーに所属し、特に福祉国家に興味をもって勉強に取り組んだこともあり、高齢者福祉分野に従事しています。1年目なので、まだまだ毎日が勉強です。業務内容も、接遇を意識した窓口対応も。どうすればできるようになるのか、日々自分の頭で考え、模索する日々を過ごしています。先日は、海津市平田町にある日本3大稲荷の1つ、千代保稲荷をブログでとりあげました(かいづ、つーかい日記、よろしければご覧ください)。今年の夏は、防災士の資格取得を目指します。

まだまだ駆け出しの今ではありますが、人生は経験、人生は挑戦を合言葉に、どんなことも1歩1歩丁寧に確実に積み重ねていきたいです。学生時代に関わってくださった方々、このたよりを読んでいらっしやる卒業生のみなさん、どこかで出会ったときには、ぜひゆっくりお話をしましょう。海津市に立ち寄った際など、ぜひお声がけください。



## 会員だより

私は2018年度に地域科学部を卒業した岩田茉奈です。ゼミは富樫ゼミに所属しており、まちづくりを中心に学び、数々の地域活性化イベントに携わらせていただきました。具体的には長良川おんぱくのイベントの企画やNPO法人オルガンでイベントの運営のお手伝い、岐阜市内のまち歩きなど、そしてゼミの活動以外にラジオ番組に出演するなど、岐阜の魅力を発信する様々なイベントに積極的に取り組んできました。

このような活動をする中で、私自身岐阜がどんどん好きになり、より岐阜の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

また、そういった活動で色んな方との出会いや繋がり、またイベントが成功した時の達成感ややりがいを感じることができ、この大学生活でとても濃い学びと成長があったと感じています。

このような経験は社会に出て、どこで働いても活かされていくと思います。

どれだけ自分が積極的に学ぶ姿勢を持ち、楽しんで取り組むかで成長するスピードや充実感は全く変わってくると思います。

地域科学部は他の学部では経験できない貴重な経験ができ、

### 第19期生 <sup>いわた まりな</sup>岩田 茉奈 (森の会新役員)

何より楽しんで学べるのが1番の魅力です。

そんな魅力ある地域科学部にこれからも同窓会役員の一員として関わっていけることをとても嬉しく思います。

また、今後も大好きな岐阜に何らかの形で関わっていけたらと思います。

改めて地域科学部で学べたことに誇りを持ち、また富樫先生をはじめ、お世話になった先生方に心より感謝申し上げます。



長良川おんぱくイベントにて

## 会員だより

### 第19期生 いちかわ あやな 市川 彩奈



皆さんこんにちは！今年の3月に地域科学部を卒業した市川彩奈です。

私は、もともと地元を活性化させたいという思いがあって、この学部に入學しました。在學中は、富樫ゼミに所属し、長良川おんぱくで岐阜の伝統である鶏飼や鮎菓子の魅力を再発進するイベントを企画しました。どうしたら参加者に喜んでもらえるか、岐阜の魅力を伝えられるかをゼミのメンバーで話し合い、企画していく楽しさを知りました。

また、そこで学んだことを活かし、卒論では、地元である刈谷市の街バルについて研究をしました。ただ、聞き取り調査やアンケートをするだけでなく、実際に自分もバルイベントに参加することで、バルの魅力を肌で感じながら、楽しく卒論を書

き終えることができました。

地域愛に溢れた方々と一緒に、地域活性化について考えるという学生ではなかなかできない経験をすることができ、本当にこのゼミに入ってよかったと思っています。この場をお借りして、富樫先生にお礼申し上げます。

今は、第1志望であった地元のケーブルテレビで働いています。毎日、地域の方々にお会いし、大好きな地元を活性化させるために何ができるかを考えながら、切磋琢磨しています。

ずっとやりたかったことを実現できるように、これからも頑張ります！

## 2018年度会計報告

自 2018年4月1日 至 2019年3月31日

(単位：円、小文字は内訳)

### ●収入の部

項 目	決 算 額
会 費 (10,000円×107名)	1,070,000
懇親会費	68,000
受取利息	567
そ の 他 (近藤真ゼミ卒業の皆様より寄附)	27,000
当 期 収 入 合 計	1,165,567
前 年 度 繰 越 金	1,443,604
収 入 合 計	2,609,171

### ●支出の部

項 目	決 算 額
事 業 費	474,481
会報等印刷費	223,830
会報等郵送費	150,651
卒業・修了祝会祝い金	100,000
事 務 費	422,868
人件費	353,085
事務用品費	51,840
通信費	15,623
その他	2,320
会 議 費	86,280
諸会費	6,000
役員会雑費	23,760
交通費	56,520
総 会 費	134,745
総会経費	0
懇親会経費	134,745
予 備 費	0
当 期 支 出 合 計	1,118,374
当 期 予 備 費 合 計	0
支 出 合 計	1,118,374

項 目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,609,171	1,118,374	1,490,797

### ●資産保管状況

項 目	現 在 高
現 金	0
普通預金	
十六銀行	1,490,797
ゆうちょ銀行	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合 計	9,490,797

# 進路状況

## 学部進路 2018年度卒業生進路状況 (2019年5月1日現在; カッコ内は人数で1名の場合は省略)

### 公務員(39)

経済産業省  
厚生労働省  
国土交通省  
財務省  
総務省(2)  
岐阜県(10)  
愛知県  
愛知県警  
岐阜市(5)  
各務原市(2)  
羽島市  
本巣市  
下呂市  
海津市  
一宮市  
稲沢市  
犬山市  
愛西市(2)  
豊橋市  
刈谷市(2)  
横浜市  
大野町

### 建設・製造業(14)

(株)一条工務店  
エイトデザイン(株)  
農業生産法人わかば農園(株)  
敷島製パン(株)  
サンメッセ(株)  
日本アート印刷(株)  
(株)水生活製作所  
コニカミノルタジャパン(株)  
三幸電機(株)  
(株)アドヴィックス(2)  
大同メタル工業(株)  
林テンプ(株)  
(有)大橋量器

### 情報通信・運輸業(18)

(株)キャッチネットワーク  
(株)トヨタシステムズ  
(株)トラスト・ネクスト  
ソリューションズ  
(株)日本経済社  
(株)日本農業新聞  
セイノー情報サービス(株)  
ソフトバンク(株)  
ユニアデックス(株)  
中部ケーブルネットワーク(株)  
中部テレコミュニケーション(株)(2)  
(株)エスラインギフ  
ANAウイングス(株)  
岐阜乗合自動車(株)  
西濃運輸(株)(3)  
東海旅客鉄道(株)

### 金融・保険業(11)

(株)愛知銀行  
(株)十六銀行  
岡三証券(株)  
岐阜信用金庫(3)  
西尾信用金庫  
東海東京フィナンシャル・  
ホールディングス(株a)  
東海労働金庫  
(株)ニュータス  
東京海上日動火災保険(株)

### サービス業(5)

(株)ゴーアヘッドワークス  
(株)名南コンサルティングネットワーク  
(株)トーカイ(2)  
中日本エクシス(株)

### 不動産・物品賃貸業(3)

(株)カチタス  
(株)不動産SHOP ナカジツ  
名古屋ステーション開発(株)

### 教育・医療・福祉業(5)

学校法人 日本福祉大学  
(株)HOMESエデュケーション  
(株)生態計画研究所-自然発見館  
(株)名鉄ライフサポート  
岐阜県国民健康保険団体連合会

### 進学(3)

岐阜大学地域科学研究科  
岐阜大学自然科学技術研究科  
南山大学社会科学研究科

### 卸・小売業(6)

(株)クロップス  
(株)コメリ  
(株)バローホールディングス  
DCMカーマ(株)  
ゲンキー(株)  
生活協同組合コープぎふ

### 電気・ガス・水道業(1)

稲沢市土地改良区

卒業生数	113	進学者数	3
就職希望者数	109	進路未定者数	2
就職決定者数	108	その他	0

就職率 ..... 99.08%  
(就職決定者数 ÷ 就職希望者数)

## 研究科進路 2018年度修了生進路状況 (2019年5月1日現在; カッコ内は人数で1名の場合は省略)

### 卸・小売業(3)

ゲンキー(株)  
(株)おきなわ屋  
(株)ヨドバシカメラ

### 情報通信業(2)

(株)コスモネット  
(株)トーシンホールディングス

### 不動産業(1)

(株)トーリージャパン

### サービス業(1)

(株)弥栄

### 運輸業(1)

(株)日立物流

### 金融業(1)

東海東京証券(株)

修了生数	20
就職希望者数	9
就職決定者数	9
進学者数	0
進路未定者数	0
その他※1	11

就職率 ..... 100.00%  
(就職決定者数 ÷ 就職希望者数)

※1 社会人修了生を含む

## 岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

地域科学部及び地域科学研究科が更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献する責務を果たすために、ご寄附をお願いします。

この基金による支援事業は、1. 学生に対する学術交流協定校への留学支援、2. 教育研究活動に対する支援、3. 産学官連携及び社会貢献活動に対する支援、4. キャンパスの環境整備・充実に対する支援等としております。多くの皆様のご協力により、本学部・研究科の教育研究活動を支援し、もって地域社会の発展に貢献しうる学生を養成するために本基金を活用させて頂きたく存じます。

つきましては、皆様には本趣旨をご理解の上、格別のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

URL:<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/newsttopics/2017/05/19/post-13.html>

岐阜大学地域科学部・学部長 富樫 幸一

## 地域科学部の授業Ⅲ

開催日／10月12日(土)、19日(土)、26日(土)  
時 間／13:00～16:30(各講義90分)

10月12日(土)

13:00～16:30

柴田 和宏 助教 (科学史)  
「錬金術と科学」内海 智仁 教授  
(アイルランド文学、ヨーロッパ文化)  
「ラテン語の初歩の初歩」

19日(土)

13:00～16:30

十二村 佳樹 准教授 (都市環境工学)  
「都市の温暖化」中塚 温 助教 (統計物理学)  
「物理・サイコロ・コンピュータ」

26日(土)

13:00～16:30

柴田 努 准教授 (理論経済学)  
「株主価値重視経営と日本経済」立石 直子 准教授 (民法学)  
「性別と法 一性の多様性について  
法の視点から考える」

会 場 / 岐阜大学地域科学部101講義室

対 象 / 高校生以上

募集人数 / 100人 (先着順)

受 講 料 / 無料

申込期限 / 9月27日(金)

申込方法 / 住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、職業、車での来学の有無を  
明記の上、郵送・持参・FAX・E-mailのいずれかの方法でお申込み  
ください。※お寄せいただいた個人情報は厳重に保管し、本講座に関する連絡以外の目的では一切使用致しません。  
※手話などの別途対応が必要な方はお申込み時にご相談ください。問い合わせ先 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部 総務係  
Tel/ 058-293-3003 Fax/ 058-293-3008 E-mail/ chiiki@gifu-u.ac.jp

## 2019年度 森の役員

会 長 / 浅井 彰子①

副会長 / 浅野 善信① 都築 尚子①

幹事長 / 後藤 祐治③

幹 事 / 伊藤 雅浩① 小澤和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩ 平野 純里⑪

藤井 敬子⑪ 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭ 伊藤 未有⑮

川脇沙也佳⑱ 田島 佳奈⑱

会 計 / 荒瀬 修三③ 岩田 茉奈⑱

監 査 / 祖父江利佳① 伊藤 健人③

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 2,371名  
(2019年4月1日現在)

会員の皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

森の会は、2018年度の大学19期卒業、大学院17期修了の新メンバーをお迎えし、正会員は総勢2,371人。岐阜大学の他学部の同窓会に比べますと小さな団体ではありますが、学際的な学部から巣立った卒業生の皆さまが彩り豊かな森を形成してくださっています。さまざまな場所での皆さまのご活躍を嬉しく思っております。

今年、岐阜大学は創立70周年を迎え、さまざまな記念行事が開催されています。その一環として、図書館の一角には学術アーカイブズがオープンいたしました。各学部に保管されていた岐阜大学の「宝」が集められています。大変興味深い展示ですので、森の会でも見学ツアーを計画できたらと考えています。

そして、我らが森の会は再来年、20周年を迎えます。

森の会の活動の中心である年に一回の総会・懇親会をとおして、年代を越えた同窓生どうしの交流を楽しみ、母校との絆を保ちながら、森の会の20歳に向けて歩いていきたいと考えています。皆さまのお知恵を拝借できますように。

お一人おひとりがお健やかに、素敵に活躍されることを祈りつつ、10月26日の再会を心待ちにしております。

森の会 会長 浅井 彰子

森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。  
メールまたは郵送にて下記までお送りください。

連絡先

森の会 (岐阜大学地域科学部同窓会)  
〒501-1193  
岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内  
TEL : 058-293-3021  
FAX : 058-293-3008  
E-mail : mori2001@gifu-u.ac.jp  
事務局業務日(月・水・金 9:00～15:00)森の会アドレスに  
簡単にアクセス  
できます2019年6月1日に岐阜大学創立  
70周年記念式典が開催されました。